

よき便り

今瀬剛一

みどりみどりと墓碑はみな急ぎ過ぎ

緑ますます健やかに老ゆるなり

恋文も真名で書きしか瓜の花

蛇のごとくに延びきつてゐて暑し

暑いのも眠りたいのも齡の所為

帰る家ありて牡丹に集ふなり

永久に進める空蟬の形かな

紫陽花をつつきて弾ませて去りぬ

鉄棒がもつとも灼けて日曜日

目を大切に鯉のぼり終ふなり

蠅打つて机上を汚しひとりの夜

台風一過ひらひらとくるよき便り

背中見せて皆去りにけり蛇苺

乾ききつたる紫陽花にやや疲れ

箸二膳揃ひてありぬ青葉の夜